第195号
平成23年
11月３日

すまいるたうん

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
℡5850-3699
発行責任者
鬼塚　佳代子
℡090-2657-0300

わたしたちにできることは これからもある！

【東日本大震災被害者数】
死亡確認１万５８２１人、行方不明者３９２９人（10月５日現在、警察庁まとめ）
避難・転居者７万３２４９人

東京都社会福祉協議会では、９月から11月まで一週間交替で福島県に人的援助として困っていることの訪問調査に行っております。

荒川区社会福祉協議会（荒川社協）の丸尾さんが、10月10日～17日（７泊８日）に新幹線で１時間半かけて福島県郡山市へ。駅から車で10分程のところにある郡山市南１丁目仮設住宅に伺って来ました。

ここには、福島原発から半径20km圏内である川内村の約300世帯の方達が１～２Kの狭い場所で生活されています。高齢者世帯、独居の方、障がいのある方もおります。

川内村は耕地はわずか５％と少ないが葉タバコ、畜産・高原野菜などが産業としてあり、山林が村の大部分を占めています。村民は3000人余り、ここで生活されていない方達は県外等に避難されています。

「人との繋がりが切れてしまった」

村民がばらばらになり、医療機関も把握できておらず、慣れない土地での生活不安。人と人の絆を再構築の必要性を感じ、行政では手が届かない部分を川内村の社会福祉協議会と共にまた住民と一緒に考えて行かないとなりません。

放射線量は郡山市より川内村の方が低く、週１度は帰村できるようになりましたが、村に戻っても商店も再開されてなければ生活もできません。また、残した畑の状態も心配ですが、高齢者の方は車で帰ることもできません。こんな状態は川内村だけではありません。

「息の長い支援が必要」

荒川区にも避難されている方達は、子育て中の方や、高齢者の一人暮らしの方、障がいのある方など様々な事情の方達43世帯いらっしゃいます。

荒川区の友好都市である岩手県釜石市は、死者875人不明者349人・避難者1,257人。荒川出身の小説家・吉村昭が愛した岩手県田野畑村では、住宅約200棟全壊・死者14人・行方不明者25人・避難者347人。震災の一ヶ月前に荒川社協が訪れたおもちゃの図書館のあった南三陸町では死者455人、行方不明者640人となっております。

「関心が薄れていく」

余震も収まり、原発・放射能の話題が大きく取り上げられていますが、被災された方達は不安な生活が続いております。

荒川社協では、復興支援をテーマに**福祉まつりを11月５日（土）10～15時に荒川総合スポーツセンターで**行います。復興支援チャリティくじ（100円）では、自転車や商品券等が当たります。

また、復興支援物品販売や模擬店（昼には売切れ）福祉バザー、生活応援市支援物資受付、被災地・復興支援活動の写真展示も行います。女川町の神田瑞季さんの描いた**「生きる」**と鈴木里衣菜さんの描いた**「女川の大切な海」**絵はがき２枚１組200円で販売致します。

自分のできる範囲で支援してみませんか。福祉まつりにぜひご参加下さい。

「生きる」絵はがき2枚1組200円

◇生活応援市支援物資受付◇

☆**食品**（すべて未開封で賞味期限内のもの）
☆**洗剤**（未使用で開封してないもの）
台所洗剤・洗濯洗剤・シャンプー・リンス・トリートメント・ボディソープ・掃除用洗剤
☆**日用品**（新品）トイレットペーパー・ティッシュペーパー・ウェットティッシュ・赤ちゃん用紙おむつ
荒川区社会福祉協議会支援物資係℡（３８０２）２７９４